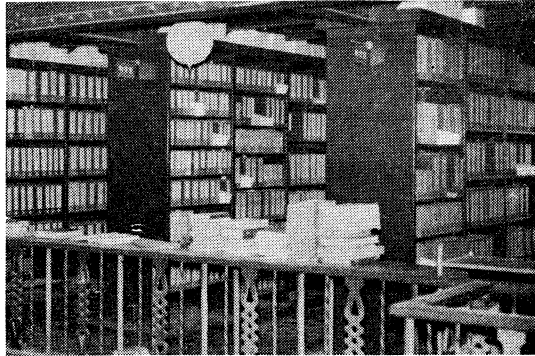


東洋学文献センター発足す

かねてから、東洋学研究者の念願であった東洋学文献センターは、京都大学人文科学研究所内に設置されることになり、本年7月1日から学内外の研究者に公開された。このセンターは、人文科学研究所に所蔵する漢籍6万部、10万冊を基盤にして、さらに必要文献で欠けているものを収集、整備するとともに、これらの文献を広く研究者の利用に供することを目的としている。

つぎにセンターの機構と事業とを簡単に紹介しよう。

位置 京都大学人文科学研究所本館
設備 受付、事務室、閲覧室、研究室のほか地階に機械室を設け、次のような機械を整備して文献複写を行なう。



エレファックス、オフセット印刷機、マイクロフィルム撮影機、自動フィルム現像機、自動フィルム乾燥機

人員 センター長（所長兼任）、主任（人文科学研究所東分部教授）、助教授1名、助手2名、事務官1名、技官1名、事務員2名（但し本年度は長、主任のほか助教授と助手1名、事務員1名が決定）なお設備、人員は本年より昭和42年度までの3カ年計画で充実する予定である。

事業 センターで行なう事業には、文献収集、閲覧、文献複写、参考調査、目録等の刊行による情報の提供があげられる。そのうち文献の収集では、蔵書中もっとも不備を感じる明代文献の収集に重点をおき、本年度は、東京内閣文庫所蔵「明人文集」約8万コマを撮影する。また、従来研究所で行なってきた「東洋学研究文献類目」を本年よりセンターに引き継ぎ、各年度に発表された東洋学関係の研究論文、単行本を収録する。

さらに、資料速報や新収文献目録の刊行、日本に現存する漢籍の総合目録等が計画され、活発な情報提供を行なう。

なおこのセンターを利用できる者は、本学ならびに国公立大学の教官、これに準ずる機関の研究者、大学院学生およびとくにセンター長が認めた者となっている。

利用時間 9.00～16.30 但し土曜9.00～12.00 日曜、祝日、本学創立記念日、年末、年始は休止。

利用に際しては、申込書（閲覧申込書、文献複写申込書）を提出して、承認をうける。

閲覧は1回5点以内、閲覧室以外への帯出、貸出を許されない。参考調査については、文書、口頭、電話等で行なってもよいが、解答は、依頼事項に関する参考文献の紹介、その所在、利用方法の指示に止める。

長期間の閲覧を希望する場合には、閲覧票交付願を提出する。

現在、文献複写業務は、設備、人員の不備からセンターで行なっておらず、複写申込みがあれば、業者に紹介して複写させており、したがって料金規定などは、まだ決っていない。

以上がセンターの概要であるが、まだ緒についたばかりで、センターとして大々的な活動は、今後待たねばならないが、すでに毎日多くの閲覧者があり、外国人の来訪も少なくなく、東洋学研究者にとって、このセンターに期待するところが大きいことを物語っている。